

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-88780

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月7日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I	
E 0 4 F 19/04	1 0 1	E 0 4 F 19/04	1 0 1 A 1 0 1 D

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-247774

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 9 月19日

(71) 出願人 000000413

永大産業株式会社

大阪府大阪市住之江区平林南 2 丁目10番60号

(72) 発明者 寺西 由歌里

大阪府大阪市住之江区平林南 2 丁目10番60号 永大産業株式会社内

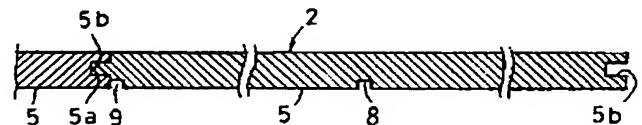
(74) 代理人 弁理士 岡田 和秀

(54) 【発明の名称】 巾木構造

(57) 【要約】

【課題】 運搬しやすく、現場での取扱いも容易で施工性に優れ、しかも原価の低減にも有効であり、かつ、意匠感に優れた仕上がりを得て、商品価値を高めることができる巾木構造を提供する。

【解決手段】 短尺に形成された複数本の巾木素材5を、その長手方向端部において実(サネ)を介して差し継ぎ連結して、所望の長尺寸法の巾木2を形成する。かつ、各巾木素材5の表面に、その長手方向に所定間隔をもって縦溝8を形成するとともに、隣接する巾木素材5の差し継ぎ連結部位に、前記縦溝8と同幅の目地溝9が形成されるように各巾木素材5の端部を実(サネ)加工する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 短尺に形成された複数本の巾木素材を、その長手方向端部において実（サネ）を介して差し継ぎ連結して、所望の長尺寸法の巾木を形成するようにしてある巾木構造。

【請求項2】 各巾木素材の表面に、その長手方向に所定間隔をもって縦溝を形成するとともに、隣接する巾木素材の差し継ぎ連結部位に、前記縦溝と同幅の目地溝が形成されるように各巾木素材の端部を実（サネ）加工してある請求項1記載の巾木構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、部屋における内装用の壁の下端と床との間に形成される間隙を隠すように配備される巾木の構造に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、巾木の素材は4 m程度の長さの長尺ものとして製作され、これを現場に搬入して継ぎ足しあるいは切断して使用している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、長尺の巾木素材は運搬しにくいのみならず、現場でも取扱いにくく施工に手数がかかるものとなっていた。また、長尺の巾木素材は原材からの切り出しに歩留りが悪く、原価が高くなりがちであった。

【0004】本発明は、このような点に着目してなされたものであって、運搬しやすくかつ、現場での取扱いも容易で施工性に優れ、しかも原価の低減にも有効な巾木構造を提供することを主たる目的とする。また、意匠感に優れた仕上がりを得て商品価値を高めることができるようにすることを他の目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

〔構成〕請求項1に係る発明の巾木構造は、短尺に形成された複数本の巾木素材を、その長手方向端部において実（サネ）を介して差し継ぎ連結して、所望の長尺寸法の巾木を形成するようにしてあることを特徴とする。

【0006】請求項2に係る発明の巾木構造は、請求項1に係る発明において、各巾木素材の表面に、その長手方向に所定間隔をもって縦溝を形成するとともに、隣接する巾木素材の差し継ぎ連結部位に、前記縦溝と同幅の目地溝が形成されるように各巾木素材の端部を実（サネ）加工してあることを特徴とする。

【0007】〔作用〕請求項1に係る発明の上記構成によると、1本の巾木素材を、一般的な家屋の基本モジュール（90 cm）、あるいはその整数倍（例えば1.8 m）の長さに製作して現場に搬入し、複数本の巾木素材を1本づつ所定位置に釘打ちしながら順次差し継ぎ連結することで所望の長さに亘る巾木施工を行うことができる。

【0008】請求項2に係る発明の上記構成によると、隣接する巾木素材の差し継ぎ連結部位に、巾木素材の表面に形成した縦溝と同幅の目地溝が形成されるので、差し継ぎ連結部が目立たなくなる。また、完成した長尺の巾木には、その長手方向に所定間隔で縦溝（目地溝を含む）が現れることになって、これが意匠感を高めることになる。

【0009】

【発明の実施の形態】図1は、本発明に係る巾木構造を備えた室内の透視図、図2は、本発明に係る巾木構造の一部の斜視図である。

【0010】周知のように、巾木Aは、部屋における床Fと壁Wとの間に形成された間隙を隠すために、床Fと壁Wとがなす隅部に沿って設けられるものであり、全体の上下幅が数十mmで厚さが10 mm前後の木製板材が用いられる。

【0011】図2～図4に示すように、本発明に用いる巾木Aは、床Fに固定される上下幅の小さい下側の巾木1と、壁Wに固定される上下幅の大きい上側の巾木2とからなる。下側の巾木1は、その壁側に上向きの凸条1aを有する段違い断面形状に形成されるとともに、上側の巾木2は、その下端に前記凸条1aを嵌入する凹溝2aを有する段違い断面形状に形成されている。ここで、凸条1aの高さは凹溝2aの深さより大きく設定されており、嵌め合い装着した状態においては、その嵌合部位の室内側に一連の横溝3が現れるようになっている。そして、湿度や温度の変化によって床Fと壁Wとの間の間隙cが変化しても、上側の巾木1と下側の巾木2とがその嵌合部において相対的に上下変位して、前記間隙cの変化を横溝3の幅変化として吸収するようになっている。なお、前記横溝3は、下側の巾木1を床Fに釘打ち固定する際に釘4の頭を沈み込ませる化粧溝として機能している。

【0012】また、前記凸条1aと凹溝2aとの嵌合角θが鋭角に設定されており、下側の巾木1に上方から嵌め付けた上側の巾木2を、そのまま起立保持させることができるようになっている。従って、先に下側の巾木1を床Fに釘打ち固定した後に、この下側の巾木1の上に上側の巾木2を壁Wに沿った起立姿勢で仮置きしたり、下側の巾木1の上に上側の巾木2を嵌め付け保持させた状態で壁際に持ち運んだりすることができ、上側の巾木2を壁Wに釘打ち固定する際にこの巾木2を位置決め保持するのが容易となる。

【0013】図1に示すように、上側の巾木2は、短尺（例えば1.8 m）に製作された巾木素材5の複数個を順次差し継ぎ連結して、所望の長さの巾木2に形成することができるようになっている。

【0014】図3および図4に示すように、各巾木素材5における表側の上端縁には、壁Wへの釘打ち固定する際に釘6の頭を沈み込ませる化粧用の横溝7が全長に亘

って形成されるとともに、巾木素材5の表面には所定小間隔（例えば30cm）おきに幅3～4mmの縦溝8がデザイン用に予め形成されている。

【0015】また、各巾木素材5における両端には、隣接する巾木素材5の端部同士を差し継ぎ連結するための突（サネ）加工が施されている。つまり、一端には縦向きの凸条5aが形成されるとともに、他端にはこれに嵌入する縦向きの凹溝5bが形成されているのである。また、縦向き凸条5aの表側部位は段違い状に切り欠かれ、差し継ぎ連結された状態において、この差し継ぎ連結部位の表側に、デザイン用に形成された前記縦溝8と同幅および同深さの目地溝9が縦向きに形成され、差し継ぎ連結線が目立たないように構成されている。

【0016】なお、前記目地溝9は、以下のようにして形成することもできる。つまり、図8に示すように、巾木素材5の一端に形成する縦向き凸条5aの高さを他端に形成する縦向き凹溝5bの深さより、3～4mmだけ大きくする形状に突（サネ）加工して、差し継ぎ深さの残り部分を利用して前記目地溝9が現れるようにすることもできる。

【0017】また、上記実施形態では、巾木Aを上下分割形式のものを例示したが、分割しない形式のものに本発明を適用することもできることはもちろんである。

【0018】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明の巾木構造によれば、以下のような効果が期待できる。

【0019】①請求項1に係る発明によると、1本の巾木素材は短いものであるため、現場への搬入、および現場での取扱いが容易で、施工性に優れたものとなった。また、短尺の巾木素材は原材からの取り出しにおいて歩留りが良く、安価に製作することができる。

【0020】②請求項2に係る発明によると、巾木素材の間の差し継ぎ部位における目地溝は、予め形成された縦溝との混在によって目立たなくなるとともに、巾木長手方向に間隔をもって現れる縦溝および目地溝が全体として文様として目に映り、意匠性に優れた仕上がりとなり、商品価値を高める上で有効となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】巾木構造を備えた室内の透視図

【図2】巾木構造の一部を示す斜視図

【図3】要部の拡大斜視図

【図4】要部の拡大縦断面図

【図5】要部の分解斜視図

【図6】巾木素材の斜視図

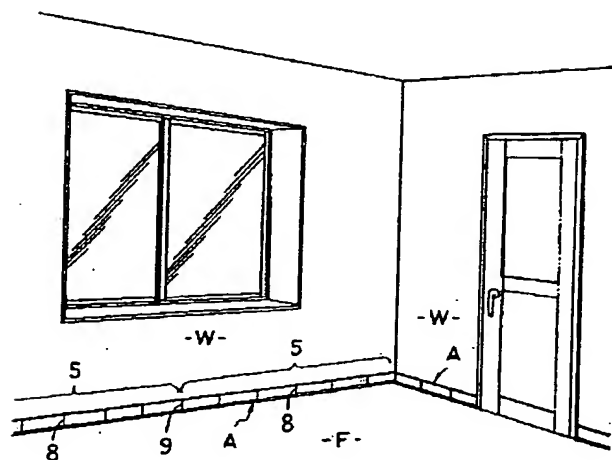
【図7】巾木の横断平面図

【図8】他の実施形態を示す要部の横断平面図

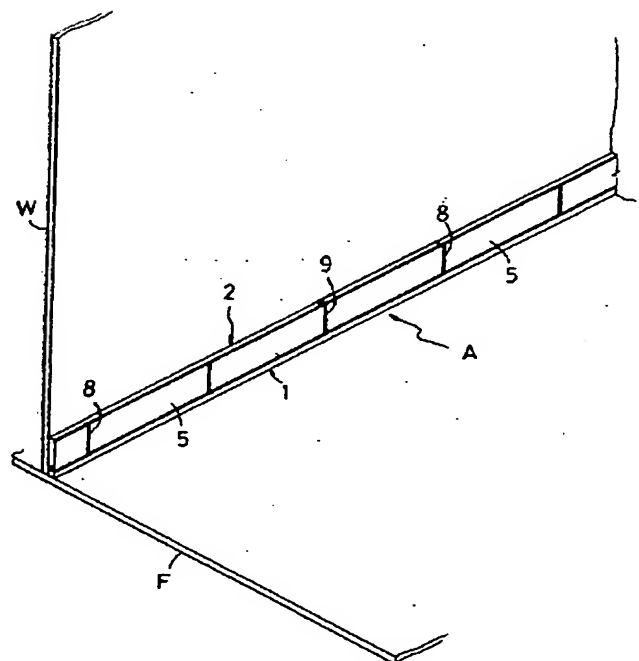
【符号の説明】

2	巾木
5	巾木素材
8	縦溝
9	目地溝

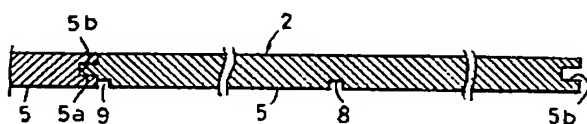
【図1】



【図2】



【図7】



【図8】

